

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の柔軟な学びに配慮した教育課程により、個別最適な学びを学校全体で推進</p> <p>②誰一人取り残すことなく、多様な教育ニーズに即した支援の充実</p>	<p>①オンラインレポート提出率および単位修得率の低下を招かぬよう学校全体で組織的に対応していける体制を整える。</p> <p>②キャッシュレス化した受講手続きの効率的な運営に取り組む。</p>	<p>①視覚効果を活用したわかりやすい生徒用マニュアルの作成や、生徒向けのオンラインレポート操作説明会を開催するとともに、職員向けのマニュアル作成や研修会も丁寧に実施する。</p> <p>②4月の受講手続きで挙げられた課題を整理し、前例にとらわれないことによりよい方法を検討する。</p>	<p>①マニュアル作成や説明会、研修会を実施することで、レポート提出率および単位修得率を維持、もしくは向上できたか。</p> <p>②10月もしくは次年度の受講手続きに向けて、よりスムーズな手続きシステムを構築できたか。</p>	<p>①4月の生徒向けの説明会は計6回設定し、8割以上の生徒が出席した。その後は個別に生徒対応を行うとともに、開発者と連携して操作性の向上に努め、オンラインへの移行は円滑に実施できた。</p> <p>②4月の手続きの課題を、改善に向け検討した。10月の手続きはシステム改修が間に合わなかったが次年度に向け引き続き検討した。</p>	<p>①今年度の課題を精査し、引続き操作性の向上に努めるとともに、生徒の計画的な学習を支援できるよう、本校の学習システムの見直しと周知を徹底する。</p> <p>②キャッシュレス化によって生まれる時間等のゆとりを、生徒への丁寧な対応にあてられるよう計画する。</p>	<p>①レポートのオンライン化がスムーズにスタートできてよかった。</p> <p>②オンライン化でも単位修得率が上がったのは学校の努力の成果である。</p> <p>③スクーリングはファシリテーターとしての教員の力量が重要である。</p> <p>④手続きのわかりにくさが生徒の単位修得に影響しないように尽力してほしい。</p>	<p>①レポートのオンライン化に伴う生徒向けガイダンスを職員一丸となってい、大きなトラブルなく1年間の学習が実施できた。</p> <p>②単位修得率も昨年度比5.3%増加した。引続き操作性の向上に努めるとともに、生徒の計画的な学習をより一層支援できる仕組みが必要である。</p> <p>③手続きの簡素化について、十分な検討を行うことができた。次年度は簡素化によって生まれる時間等のゆとりを生徒への支援に充てられるよう新たな計画が必要である。</p>	<p>①計画的な学習の例（レポート提出状況）を具体的に設定し、スクーリングやSHR、修悠館通信等で生徒へ周知するとともに、担任を中心に生徒個々へのはたらきかけも充実できるよう計画する。</p> <p>②本校で育みたい力を生徒に身につけさせるための具体的な方策について、年間を通して組織的に検討していけるよう計画する。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒が安心して学べる教育環境を維持する。主体的に取り組む意識の醸成をめざした教育活動の充実</p> <p>②生徒が自己を尊重し、自らの力を十分発揮できるよう個別最適化を図り、充実した学校生活の実現</p>	<p>①全職員に対し生徒指導規定の周知や本校における生徒指導基準の共通理解を図る。</p> <p>②生徒が参加しやすくなるような行事を企画・運営し、教育活動の充実を図る。</p> <p>③常に生徒情報を更新し、内容の把握と共有に努め、生徒一人ひとりに適切かつ効果的で継続的な支援を行えるように一層の整備を行う。</p>	<p>①生徒指導研修を通して、本校の生徒指導方針を周知する。担任が積極的に関わる指導を再構築し、生徒理解を深められるようにする。</p> <p>②文化祭、交流旅行などの活動を活性化させ、生徒の参加率を向上させる。また、生徒が主体となって活動できる環境整備をする。</p> <p>③新規事業等により学習および生活上の支援を要する生徒を見極め、必要な支援を積極的に図る。また、悠ルムを生徒が有効活用できるようにAIロボットの利活用等を工夫する。</p> <p>④教職員、SC・SSWおよび教育支援専門員等の情報共有と有効活用のためにデータベースの情報を常に最新のものに更新する。またSC、SSWに併せてメンター制度の周知や外部機関等との連携を密にし、組織的に生徒支援が行えるように努める。</p>	<p>①生徒指導研修で共通理解を図ったことが、年間を通して全職員に周知し、組織として対応できたか。</p> <p>②行事ごとに生徒にアンケートを実施し、生徒の活動の充実度がどの程度あったか。</p> <p>③悠ルム・放課後居場所カフェ等の利用者の集計やそこでの情報を活用できたかをアンケートにより確認する。</p> <p>④教職員が様々な情報をデータベース上に速やかに入力を更新するよう努めていたか。またその情報を必要な支援に活用できたか、SC・SSWおよび外部機関に必要なに応じた相談を受けられるか。また、その情報や相談を支援に繋げ、組織的に取り組めたかをアンケートにより確認する。</p>	<p>①4月の生徒指導研修を通して生徒指導の共通理解を図ることができた。また、特別指導案件での会議の場では、職員間で齟齬がないよう、事案の丁寧な説明をおこなった。</p> <p>②生徒の積極的な行事参加により成功を収めることができた。特に初開催である交流旅行では、当初は生徒から不安の声もあったが、事後のアンケートでは全ての生徒が満足できる内容だったと回答した。</p> <p>③悠ルムの整備・放課後居場所カフェでのアンケート等を通じ、生徒が利用しやすい環境整備を進め、その結果支援が必要な生徒の新たな見出しができるようになりつつある。また、トライ教室の運営法を見直し生徒のニーズに合う環境を整備した。</p> <p>④SC、SSWとの情報共有及びデータベースへの速やかな入力支援の必要が生徒への確実な対応とすることができた。また必要な生徒に対してのメンター制度は有効に機能している。</p>	<p>①多様な背景を持つ生徒がいる中で1人1人の状況に応じた指導が必要である。次年度以降はそのような事例研修も行い、より効果的な指導につなげる。</p> <p>②文化祭はまだまだ生徒の参加が少ないのが現状である。次年度以降も生徒の参加呼び掛け、学校生活の充実を図る。</p> <p>③放課後居場所カフェの継続的な運営のための生徒組織の継続性やイベント企画のあり方が課題となった。他グループとも連携をとりながら検討していく。またトライ教室のYSKホーター不足に伴う人員の確保は新たな開拓先を検討する。</p> <p>④SC、SSWとの情報共有・連携を今以上に確実化し生徒支援に繋げる必要がある。DBの情報更新が日常的に行われ、それが有効活用できるように職員意識を高めるようにさらに啓発活動を行っている。</p>	<p>①生徒の数が増え、難しい生徒が増えているので、保護者をはじめ、関係機関及び地域と連携し、対応していただきたい。</p> <p>②生徒が積極的に行事に参加していることは素晴らしい。その一方で関心を示さない生徒もいるので、オンライン参加等も開拓してほしい。</p> <p>③Hanataba Cafeは元気な生徒が多い印象だが、多様な生徒の居場所になっていることを評価する。</p> <p>④居場所の分散整備により保健室負担の軽減、支援を受け取れない生徒がいる現実を踏まえた対応を評価する。</p> <p>⑤「まだつながれない生徒」を意識できている点が重要である。教員の生徒への丁寧な関わりを高く評価する。</p>	<p>①全職員に対し、生徒指導規定の周知や本校における生徒指導基準の共通理解を図ることができた。しかし、基礎的な研修に留まり事例研修を実施できなかった。</p> <p>②交流旅行に於いては、事前指導を複数回おこなうことにより、交流旅行初日から生徒同士の積極的な関りを見ることができた。文化祭は参加者の増加は見られたが、企画団体として参加する生徒の増加は見られなかった。</p> <p>③悠ルムの改修や Hanataba Cafe の開始などにより生徒が分散するようになり生徒に対する支援の目が行き届きやすくなってきた。今後は支援の場に加わることができない生徒の中の支援が必要生徒の見出しの方法を考える必要がある。</p> <p>④データベースへの更新作業は職員が意識をもって取り組めるようになった。今後は入力した情報をいかに支援に繋げていくかの方策を考える必要がある。</p>	<p>①事例研修を通して、本校の実態に即した研修が行えるように、研修体制を見直す。</p> <p>②文化祭の参加団体増加は、生徒に呼び掛けるだけでは難しく、教員が企画することによって生徒も参加しやすくなると考えられる。そのため、教員への積極的な参加呼び掛けをおこなっていく。</p> <p>③支援の場として設定しているところだけではなく日常のスクーリングや面談等を通じて支援が必要な生徒の認知ができるように常にアンテナを意識していくようにする。</p> <p>④データベースの情報をより簡単に確認できるようなシステムを考え、常に最新の情報を確認しながら支援に繋げていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒が将来を考え、自分の適性に合った実現可能な進路選択を行い、行動できるようにサポート体制の強化</p> <p>②生徒個々の可能性を広げ、社会的自立に向け、生徒が興味関心を持ち積極的に活動できる支援体制の充実</p>	<p>①横浜中地区のインターシップへの取組みや就職前インターシップを実施し、自分に適した就職支援を行う。</p> <p>①進学アドバイザーの利用や各種説明会等の参加を増加させる。また「進路・進学探究」プログラムを充実させる。</p> <p>②個々の生徒の特性に合わせて、成長に寄与できる通級指導のあり方を考え、生徒自らが、将来の自己実現を考えられるような活動を行う。また、関係機関等と積極的に連携し、一層効果的な支援を行う。</p>	<p>①事前説明会や修悠館通信、マイページのお知らせ等に載せ、周知活動を徹底して行い、参加者を増加させる。</p> <p>①民間企業と連携した「進路・進学探究」プログラムの参加者を増やすため、予算化し、希望者が確実に活用できる環境を整える。また、進路未定者への方策を検討する。</p> <p>②通級に参加している生徒を含め特別な支援が必要な生徒等が自らの希望に沿った進路実現のためにインターシップ・就業体験等を行い、保護者と協働して卒業後の進路を考えられる支援を行う。</p> <p>②校内での情報共有と共通理解を図るとともに、関係機関等との連携をより一層深め、適切かつ的確な支援に努め、生徒が希望する進路実現に挑む力を育む。</p>	<p>①より多くの参加者に支援ができ、就職活動率や内定者数が高まったか。また、就職前のマッチング指導を実施することで、効果的な影響があったか。</p> <p>①各進路説明会等の参加者に充実した支援ができたか。また、プログラムの運営に満足できたか。支援の充実で未定者の割合が変化したか。</p> <p>②自校通級・他校通級に参加している生徒・保護者の希望を確認し、スムーズな進路活動に向けた取り組みや活動ができたかを進路状況や生徒・保護者の振り返りから確認する。</p> <p>②生徒一人ひとりの支援について、必要な関係機関等と顔が見える関係作りや連携が取れたか。また、生徒自身が自らの進路に対して積極的かつ具体的に考えることができたか。</p>	<p>①横浜中地区のインターシップへは、周知活動の充実により(5倍増)多くの生徒に将来の目標設定の手助けができた。本年度の就職前インターシップは7月より実施し、インターシップ先に3名の希望者が内定につながった。</p> <p>①「進路・進学探究」プログラムの参加者数は1.3倍になり、進学実績が上がった。卒業予定の未決定者や来年度に向けた生徒への対応を10月末進路説明会で実施した。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路希望の実現のために生徒・保護者の希望を丁寧に聞き、積極的に情報提供や施設見学などを行った。</p>	<p>①生徒一人に適した就職支援を行うため、継続した取組みを重ねる必要がある。就職前のマッチング指導としてはさらに検討していく。</p> <p>①進学については、効率的かつ円滑に、より多くの生徒を指導できる体制を検討し、充実させる。点検等を充実させ、ミス等起こらないチェック体制を構築する。</p> <p>②生徒自ら自分の意思を表現できない生徒が多い中で、いかに生徒の希望を実現させるかが課題である。より一層丁寧かつ時間をかけて面談等を行うようにする。</p>	<p>①インターシップ参加者の倍増とインターシップ先への内定は素晴らしい成果である。就職者増は大きな成果である。準備段階の生徒への支援とキャリアステへの接続を要望する。就職は相性の確認が重要。卒業生の話を書く機会を提案。通信制で身につく計画性・自己管理能力は社会でいきる。通信制という特性をいかし、通信制課程でもしっかり学べる大学、テレワーク中心で働ける分野の仕事に強い学校になってほしい。</p> <p>②保護者との協力により、指導していただいている。</p>	<p>①周知活動の充実や就職担当者やキャリアアドバイザーの連携した働きで、内定者が増加していることは学校関係者から大きな評価をいただいた。また、キャリア科目も要因の1つであるので、キャリアステへの関わりも強化していく。課題としては、多忙期に担当者にかかる負荷を解消することである。</p> <p>①「進路・進学探究」プログラムの実績を継続し、通信制だからこそ身につく分野の開拓を心掛ける。また、卒業予定の進路未決定者の対応が大きな課題である。</p> <p>②通級指導などを通じて、生徒の考えや希望を把握し、その中から施設見学や実習を行い卒業後の進路について考えられるように指導した。また、保護者に対して情報発信を常に行い、保護者と学校との連携が取れるようにした。その一方で、自身の意思が表現できない生徒も多数いるので、そのような生徒に対する接し方をより工夫する必要がある。</p>	<p>①内定者を増加させるための就職支援を行うため、継続した取組みを重ねていくことが重要で、多忙期の担当者やアドバイザーの増員や役割分担を構築していく。また、キャリアステとの連携を密にし、卒業予定、卒業後も進路相談の働きかけを充実させる。</p> <p>①進学については、マニュアルを見直し、総合型学校推薦に対応し、担任と連携しながら、ミスなく点検等を行う。通信制で学ぶ多くの生徒を指導できる体制を検討していく。</p> <p>②時間をかけ、わかりやすい表現を心掛けながら生徒自身の考えや希望を丁寧に聞くようにしていくとともに、保護者と連携を密にし、生徒の卒業後の進路決定の支援していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域や近隣の小中学校等と連携し、協働の体制を構築することで、地域に貢献し、地域から信頼される学校づくりの推進</p>	<p>①地域の力を本校の教育活動に生かすとともに、地域の行事への参加を通して地域に貢献する。</p>	<p>①地域との協働に関する行事の一覧表を更新しながら、校外で活動する団体に声掛けを行い、情報発信の回数を増やす。</p>	<p>①地域との協働に関連した行事や教育活動に関して作成した修悠館フラッシュが昨年より増えたか、また活用できたか。</p>	<p>①地域だよりでは、地域に関する記事を増やした。行事に参加した時の様子を紹介する修悠館フラッシュでは、昨年より7件増え、様々な活動を発信することができた。</p>	<p>①生徒が参加した地域の行事は1件にとどまり、その他の地域との交流もやや深めるにとどまった。来年度も地道に情報発信していき交流を深めていく。</p>	<p>①修悠館の良さを地域にもっと発信していただいている。地域行事へ参加する際、事前に参加可能生徒を把握しておく体制があるとよい。</p>	<p>①地域だよりの記事に、生徒が地域の行事に参加した様子を載せるなど、より地域に根差した内容に作り変えた。修悠館フラッシュを昨年より7件多く作成し、校内外の学校説明会等で活用した。一部、情報発信に課題を残した。</p>	<p>①ふるさと祭りなど生徒が参加する地域の行事についても保護者等に周知する。小学校等の行事参加の要請があった場合には、条件がそろえば参加できる体制を整える。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒の自己実現に向けた主体的な活動をサポートする環境整備とサポート力の向上</p> <p>②教育環境の変化によりよく対応しようとする教職員体制の充実</p>	<p>①実践的なオンラインスクーリングの運用を目指す。</p> <p>②様々な災害に即応できるよう教職員を再配備し、生徒の防災意識向上を目指す。</p> <p>②働き方改革を推進し、教職員の力を最大限に発揮できる環境を整備する。</p>	<p>①スクーリングの配信について有効的な活用方法を模索する。様々な活用方法を想定し、知識とノウハウをシェアする。</p> <p>②本校の役割を再確認し、教職員の再配備をする。</p> <p>最新の防災の知識を取得し、訓練等を通じ生徒に還元する。</p> <p>②諸々の手続き等のオンライン化を促進し、生徒に費やせる時間を創出する。</p>	<p>①オンラインスクーリングの視聴数と生徒の満足度がどの程度であったか。教員の気づいた点や技術などをまとめたものを作成できたか。</p> <p>②災害時の新しいマニュアルの作成に着手できたか。</p> <p>防災訓練のアンケート調査を行い、防災意識の高まり、防災知識の習得を促進できたか。</p> <p>②生徒により寄り添う時間の創出ができたか。</p>	<p>①機材の導入が完了し、来年度に向けた基本方針を作成することができた。</p> <p>②R7年度のマニュアルを作成し、教員全体へ周知した。</p> <p>生徒防災訓練に対しアンケートを通じ、生徒の防災への意識を確認することができた。</p> <p>②多くの業務でオンライン化が進んだ。教員の生徒に寄り添う時間の創出がおおむねできた。</p>	<p>①オンラインスクーリングは実施できなかった。職員向け説明会などを実施し効果的な運用を目指したい。</p> <p>②来年度のマニュアルをより充実したものにする。</p> <p>生徒の防災訓練のアンケート結果の活用で課題が残った。</p> <p>②業務のDX化を進められるよう職員の意識改革を行う。</p>	<p>①学校として絶えず改善を図っている姿勢が素晴らしい。</p> <p>オンラインスクーリングは大変だと思うが、実現できればいろいろな可能性があると感じる。</p> <p>②防災マニュアルの策定と周知を実施した。訓練後の調査では生徒の意識向上に効果が認められたものの、今後は得られたデータの具体的なフィードバック体制の構築が課題である。</p> <p>②業務のDX化により事務負担が軽減され、生徒に寄り添う時間が創出された。この成果は、生徒の安心感醸成に寄与するものと評価できる。</p>	<p>①次年度は本格運用に加え、教員研修によるオンラインスクーリングの指導力向上を推進する。ICTを最大限に活かし、教育効果の高い学習環境を構築していく。</p> <p>②来年度のマニュアルをより充実したものにする。訓練後のアンケート結果を、全体の傾向把握に留めず、個々の生徒に還元する仕組みを構築する。</p> <p>②業務のDX化を基盤としつつ、業務フローの最適化と既存システムの質的向上に取り組んでいく。</p>	

